



2006年

9月

韓国から



●目次

特集 自転車と子どもの安全

子どもの安全と交通安全教育～チャリンコチャンピオンのすすめ～	松村 暢彦	4
池田市における自転車マナーアップ運動	前野 哲也	6
けやき坂地区自転車乗車マナーアップ講習会の実施について	田辺 康	7
能勢町での取り組み～こんな工夫もしてみました。 これから取り組まれる皆さんへの体験的アドバイス～	向井 英之	8
オヤジが支えるチャリンコチャンピオン	上田 敏幸	9
〈SHITEN〉「大阪発 市民の環境安全白書」ができました	西川 栄一	2
〈とてくスタ・エスパーニャ? (スペインはお好き?)〉猛暑と水不足	田村 隆好	3
〈リレーエッセイ〉意外に身近な公害問題	橋本 孝子	10
〈忙中一筆〉自転車マップづくりにかける	青木 洋介	12

韓国から司法修習生のグループが、公害・環境訴訟について研修を受けるために、7月3日～12日までの10日間を大阪・東京で過ごしました。あおぞら財団は大阪での受け入れ事務局をつとめました。2000年から続くこの研修では、最大数となる18人の参加者でした。大気汚染、自然環境保全、葉害などの訴訟の第一線で活躍する日本の弁護士たちを講師陣に、熱い議論が交わされた研修でした。

今回の研修を通訳としてサポートしたのは、日本で学ぶ韓国の留学生6人。専門用語のオンパレードにまどう場面もありましたが、韓国と日本の架け橋となりました。

視点 SHITEN

環境再生にかかわる課題を、さまざまな視点から自由に論じるコーナーです。

「大阪発 市民の環境安全白書」 ができました

いま知りたい・知ってほしい
環境安全問題 133項目、
85人の執筆陣が解説

市民の健康、生活を守る視点に立って、環境問題全般の動きを伝える白書のようなものはないか、大阪から公害をなくす会の林功事務局長とお会いした時など、時折このことが話題になっていた。あの問題この問題に忙しく奮闘している林さんを見てみると、リタイアして1年、私も何か手伝わねばという気になって、例の白書づくりに取り組んで見ましようか、と言ってみた。林さんも乗り気です。昨年春頃であったが、白書づくりの準備が始まった。

白書の企画にはアレコレずい分悩んだが、結局
起こっていることの実相がわかる
知りたいことが載っている
わかりやすく手軽に使えて運動や学

西川 栄一
習に役立つ
をモットーに、1項
目1頁完結という体
裁をとることにし
た。大阪自治体問題

研究所が共同編集を快諾され、お陰で多くの自治体関係者が執筆に参加され、内容がしまったものになった。
とはいうものの初めての試み、多少とも有用にできあがったのかどうか心もとない。出版から3ヶ月余経ったが、リベラ読者諸姉兄の中にもすでに手に取って頂いた方もおられると思う。ご感想はいかがでしょうか。

「つくろい のちと環境優先
の社会」
白書のタイトルに
林功さんの思いを託す

ただ白書だけでは味気ない。市民がより健康に、より安全に、より人間的に暮



らしてゆける自然環境の保全、社会環境の充実を目指す、そのような方向性を示せるタイトルを付けたいと思ったが、なかなかうまいのが浮かばない。そんな時林さんが、体調苦しい中で頑張っ準備してくれた原稿下書きを見せてくれた。その副題を見てコレがいい、ぴったりだと感じ、林さんにお願いでOKをもらった。林さんはその後病状がどんどん悪化し、4月初めに急逝された。残念極まりない結果となったが、それだけに、この白書のタイトルには林さんの強い意思が込められていると感じている。

環境行政を後退させないために
白書をご覧頂いてもわかると思うが、



『つくろう いのちと環境優先の社会 大阪発 市民の環境安全白書』(A4判140頁、本体1714円)
問い合わせは、(社)大阪自治体問題研究所(06 6354 7220)または、大阪から公害をなくす会(06 64663 8003)へ。

規制緩和・民営化の中で、市民や勤労者の健康無視、安全無視の企業活動が横行しており、監視や規制の強化が従来にも増して必要になってきている。にもかかわらず財政逼迫・効率化と称して環境行政は縮小後退を続けている。私たち市民が監視と運動を強めねばというのが、白書づくりに参加して思うことである。

(にしかわ・えいいち 神戸商船大学名誉教授)



世界遺産に指定されているコルドバのメスキータ(回教寺院)

私はというと、日本では信じられない気温40 越えの日々を、ここ州都セビージャにて過ごしています。

スペインは、国土面積が日本の約1.3



猛暑と水不足

今、私の住んでいるアンダルシア州は、わずか15kmのジブラルタル海峡を隔てるアフリカ大陸という地理的条件のため、連日酷暑が続いています。

現在、私の住んでいるアンダルシア州は、わずか15kmのジブラルタル海峡を隔てるアフリカ大陸という地理的条件のため、連日酷暑が続いています。この猛暑、水不足のため乾燥大陸スペインでは、連日山火事が発生しており、毎日ニュースで大きく取り上げられています。特に、聖地サントアゴスティーノ・コンポステーラで有名な北部アンダルシア州の被害は甚大で、7月末現在で7000件を超える森林火災が発生しており、アンダルシアに多数ある風量発電機群にも被害が出ています。

スペイン政府はEU諸国に援助を要請し、鎮火に躍起になっていますが、焼け石に水というのが現状です。また政府は、事前対策として新火災防止令を制定し、テレビや街頭などで、たばこのポイ捨て、空き瓶(反射熱による発火の為)等の放置を禁止する啓発運動を行っています。

今、私は共同生活しているスペイン人がアンダルシア出身のため、私たちが少しでも出来ることをしようと話し合い、日常生活の水道量を如何に減らすか、努力している毎日です。(たむら たかよし)

今、私の住んでいるアンダルシア州は、わずか15kmのジブラルタル海峡を隔てるアフリカ大陸という地理的条件のため、連日酷暑が続いています。

現在、私の住んでいるアンダルシア州は、わずか15kmのジブラルタル海峡を隔てるアフリカ大陸という地理的条件のため、連日酷暑が続いています。この猛暑、水不足のため乾燥大陸スペインでは、連日山火事が発生しており、毎日ニュースで大きく取り上げられています。特に、聖地サントアゴスティーノ・コンポステーラで有名な北部アンダルシア州の被害は甚大で、7月末現在で7000件を超える森林火災が発生しており、アンダルシアに多数ある風量発電機群にも被害が出ています。

スペイン政府はEU諸国に援助を要請し、鎮火に躍起になっていますが、焼け石に水というのが現状です。また政府は、事前対策として新火災防止令を制定し、テレビや街頭などで、たばこのポイ捨て、空き瓶(反射熱による発火の為)等の放置を禁止する啓発運動を行っています。

今、私は共同生活しているスペイン人がアンダルシア出身のため、私たちが少しでも出来ることをしようと話し合い、日常生活の水道量を如何に減らすか、努力している毎日です。(たむら たかよし)

特集 自転車と子どもの安全

子どもから大人まで利用する便利な乗りもの自転車。台数の増加（大阪市内660万台余）とともに事故も急増（平成17年度 19,560件）、取り締まりの強化も打ち出されましたが、基本はマナーアップ。あおぞら財団が普及をよびかけている「チャリンコチャンピオン」というユニークな安全教育と池田市のマナーアップ運動を紹介します。

子どもの安全と交通安全教育

「チャリンコチャンピオン」のすすめ

松村 暢彦

自転車に乗れる

「あなたは自転車に乗れますか？」

と聞かれたら、あなたはどつ答えるでしょうか。多くの方は自信を持って、即座に「Yes!」と言うでしょう。では、「あなたは自転車に正しく乗れますか？」

であればどうでしょう。こうなると少し怪しくなってきました。「自転車の乗り方は親父に教えてもらったけど、正しいといわれても。そういえば小学校で自転車のルールを覚えてもらったような気がするけど、覚えてへんなあ。まあ、事故にあつてへんから自分の乗り方は正しいのとちゃうか。」と思う方も多いのではないのでしょうか。そんな親に自転車の乗り方を教えてもらうのですから、当然子どもも補助輪なしで乗れるようになってきたら、「自転車に乗れる」と錯覚するもの無理はありません。

気づく 予測する 行動する

自転車は法規上では軽車両に区分されますので、「歩く」と「自転車に乗る」は、大きな隔たりがあります。自転車に乗るためには、ルールを知らなければなりませんし、ルールを適用し行動する場面の確に想定したうえで、ルールにしたがつて行動できなければなりません。いわゆる、「気づく 予測する 行動する」の一連のプロセスをスムーズに行うことが要求されます。たとえば、止まれる路面標示がある見通しの悪い交差点に自転車でさしかかった場面を想定してみましよう。まず、止まれる路面標示に気づいて、物陰から自動車が走ってくるかもしれないと予測し、ブレーキをかけて止まれる表示より前で自転車を止めなければなりません。このどれか一つでも欠いてしまうと、安全は損なわれます。

行動するための技術を楽しく学ぶ

こうしたプロセスを学んでいくには、誰かに口頭で教えてもらうだけでは十分ではありません。ですから、最近、全国でひやりマップを作成して、危険な箇所を「気づく」試みが広がっています。また、警察では、校庭に模擬道路を作つて次の交通状況を「予測」し、どう「行動」すればよいかを教えようとしています。

このような取り組みのなかで、チャリンコチャンピオンは、正しく「行動」するための技術を楽しく学ぶ試みと位置づけられます。チャリンコチャンピオンはドイツの交通安全教育のプログラムの一つとして開発されました。チャリンコチャンピオンでは、

- ・ 道路上の狭いカーブをバランスを失わないで通過することができる技術
- ・ (8)の字におかれた牛乳パックやペットボトルを倒さずに1周する「写真」
- ・ 自転車で追い越したり避けたりする際に遠くから正しく判断できる目測の技術

・ 速度とブレーキの関係を判断し、横滑りすることなく決まった場所に停止することができる技術

などを競技として折り込み評価します。



8の字走行：8の字におかれた牛乳パックを倒さずに1周する



ふりむいて安全確認してからクルマを追い越す



足をつかずにスラローム走行

具体的な内容は、次のページから掲載されている実践例をご覧ください。私もいろいろな地域でチャリンコチャンピオンのお手伝いして参りましたが、どこでも子どもたちはきらきらした目でとりくんでくれ、このプログラムをサポートしてくれるPTAや小学校の先生方、NPOの人たちも「やってよかった」と手応えを感じてもらっています。

時間、空間、仲間、3つの間

子どもたちには、時間、空間、仲間の三つの間が必要です。ゆったりした「時間」は子どもたちの特権ですし、そんな時間を作ってやれるのは親の仕事です。一方、「仲間」は子どもたちが作るもので親が口を出すものではありません。そんななかで、「空間」は、親、子ども、

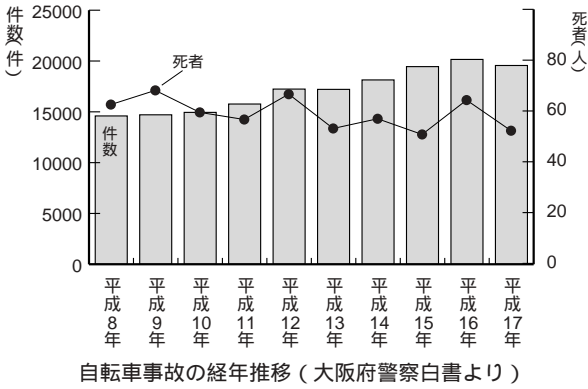
地域の人たちなど多くの人たちによって作られていくものです。チャリンコチャンピオンは、よりよく空間をつかう技術を学び、行動する機会をつくる取り組みです。自分の命を守ることを通して、地域を守る取り組みです。是非、皆さんのまちでも行ってみてください。
(まつむら・のぶひこ 大阪大学大学院工学研究科助教授)

池田市における自転車マナーアップ運動

前野 哲也

はじめに

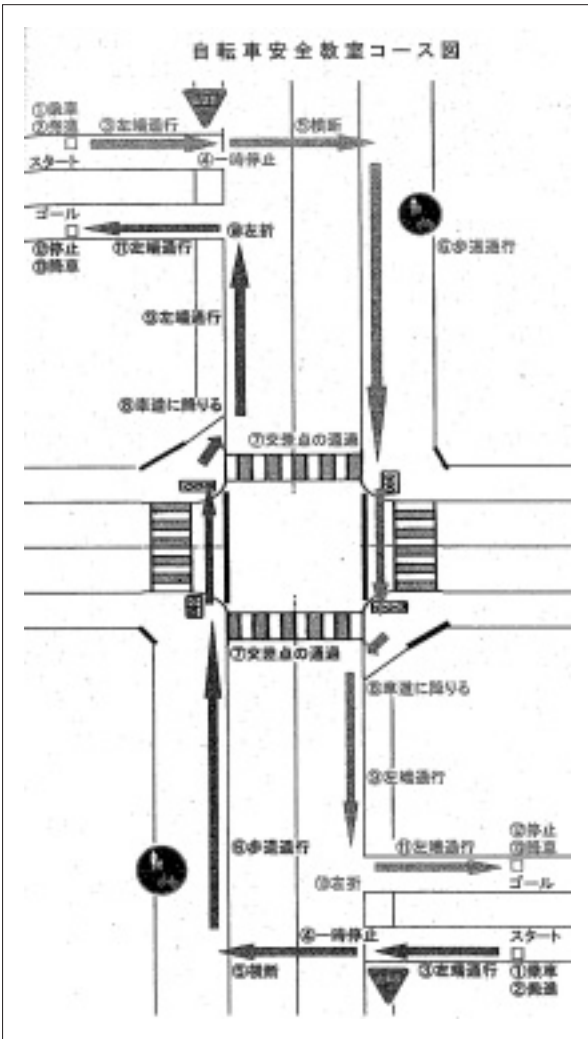
池田市では、自転車利用のマナーや放置自転車対策は喫緊の課題でもあり、自転車利用についてマナーやルールを広く理解してもらうことは重要なことであると考えています。自転車免許証モデル事業を契機に府下初の「池田市自転車マナーアップ運動」の推進や既存条例に自転車の安全利用を盛り込んだ条例の一部改正、市民参加による「2005いけだサイクルフェスタ」を実施するなど自転車のマナーアップに取り組



んでいます。

自転車免許証モデル事業

全国4ヶ所(大阪、千葉、香川、鳥根)の内の1つとして「自転車免許証モデル事業」を池田市で実施。事業の狙いは、自転車の関係する交通事故が増加の一途であるため、本格的に自転車の利用を開始する小中学生の安全利用に係る意識の向上を図るものです。また、小学生の時期から交通安全意識(マインド)を培うことにより、生涯にわたって効果が期待でき、長期的な視



点から「利用者一人ひとりの意識の向上」を図るものです。

(1) 実施体制

大阪府警察本部を中心に大阪府交通安全協会、池田警察署、池田市、池田市教育委員会、池田交通安全協会等の連携で実施しています。

(2) 交通安全教室の実施

市内の11小学校(3年生・5年生)・2中学校(1年生・2年生)を対象に学校の総合学習の時間を2時間使用して、自転車の安全運転講習(学科・実技)を実施し、約1,200名に自転車免許証を交付しました。

学科講習では、最初に10問の「xテスト」を行い、答え合わせの後、テキストや簡単な教材を用いた、自転車の乗り方や交通ルール、自転車の点検方法、自転車の保険についての警察官による講習を行って

ます。

実技指導では、運動場に模擬道路を作成し、実際に児童・生徒が自転車に乗りながら交通安全協会自転車指導員による指導を生徒・児童1人ひとりに対して行いました。右後方を確認後、スタート地点を出発し一時停止、左右の確認、道路の横断、自転車及び歩行者専用の標識のある歩道の通行(歩道の中でも車道側)、自転車横断帯のある横断歩道の通行、歩道のない道路の通行(道路の左側)などで終了です。

(3) 自転車免許証作成、交付

自転車免許証は、事前に児童・生徒の写真を撮り、学校名、名前、交付日を入力作成し、安全教室実施日に交付しました。

今後の展開

平成17・18年度は、大阪府警察本部が主体となりモデル事業として実施しましたが、19年度以降は池田市、池田警察、池田交通安全協会が協働で実施する予定です。さらなるルールの遵守・マナーの向上を図るための啓発活動を行う必要があり、継続して活動することが重要だと考えています。この問題は、すぐに解決できるものではなく、長期的に取り組まなければならないものです。今後は、小・中学生だけの交通安全教室を高校生、成人、高齢者に広げ、交通ルールの理解、マナーの向上を通じて、少しでも交通事故が減少し、自転車がすべてにやさしい乗り物として活用されるよう取り組んでいきたいと考えています。

(まえの・てつや 池田市都市整備部交通課)

けやき坂地区自転車乗車マナーアップ講習会の実施について

田辺 康

昨年の4月に公民館勤務となり、日頃から図書室利用のため、子ども達が自転車に乗車して公民館に来ており、子どもの安全を守るためにどうしたらよいか公民館講座として模索していたところ、和泉市緑ヶ丘小学校PTA、能勢町青少年指導委員会および池田市交通対策課取り組みを参考として地域連携を主眼においた自転車乗車マ

ナーアップ講習会を3月19日に実施しました。
警察署の参加に腐心
最初は、子どもの安全を地域でどう取り組むのがよいか。地域の防犯委員会と相談したが、すでに学校等において子ども見守り隊の発足もあり、自転車乗車のマナー



「自転車はクルマといっしょ...」しっかり学びます



きちんと止まって右、左...

アップをテーマに絞り込み、地域連携型で取り組むことになった。
また、今回は、公民館としてはあくまでも地域の取り組みのキツカケづくりであり、本来的にも学校・市交通対策担当・警察署で対応すべきであるが、公民館を拠点として地域を巻き込むことも大切であるため、他市町の取り組みを参考として今回の講習会を実施しました。
当初は、警察主体の安全講習会と地域主体の実技(チャリンコチャンピオン)の2本立ての計画で、地域のコミュニティ組織と市交通対策担当・警察署と協議していたが、とくに、警察署をどう説得し、イベントに参加してもらうにはどうすればよいか



子どもたちには免許証 (写真提供 池田市)



が一番苦心しました。
地域ぐるみの実行委員会
そのためには、公民館だけでは、説得できないのでコミュニティ組織・防犯組織などで実行委員会を立ち上げ、また、開催日には、地域の福祉委員会のふれあい広場事業とドッキングして実施し、警察の考える厳密な講習会ではなく、遊びの要素を入れたイベント方式で実施計画を立案しました。
また、開催場所も、阪神大震災後にできた震災復興高層住宅の広場で実施し、本年度実施の団体のキャラクターのはばタンのぬいぐるみも登場させ、また、警察からは、パトカー・白バイの配置・警察服を試着する趣向も取り入れ、講習会を盛り上げていただきました。
さらに、参加賞として阪神北県民局と交通安全協会から安全グッズなどを提供していただきました。

地域とつながる公民館

このように、成功裏に終えることができたのは、公民館が地域とつながっていたこと。その地域が子どもの安全に関心をもつて全面的に協力していただき、警察署が積極的に参加していただける体制ができたことが大きいと思います。

今後は、この体験を生かして、学校および地域と連携してさらなる自転車乗車のマナーアップを普及していきたいと考えています。
(川西市けやき坂公民館館長補佐 たなべ・やすし)

能勢町での取り組み ～こんな工夫もしてみました。

向井 英之

能勢町は大阪最北端に位置し、北は京都府、西は兵庫県に囲まれた人口約1万3千人の自然豊かな町で、素語りによる「能勢浄瑠璃」は全国的に有名です。

チャリンコチャンピオンとの出会い

本町での「チャリンコチャンピオン」の取組みは、能勢町青少年指導員協議会の中で生まれました。従来の街頭でのチラシ配りによる啓発だけではなく、青少年（小学生を含む）が実際に体験することを通じて、青少年の健全育成につながるものはないかと考え、委員のひとりより大阪府池田市の自転車安全指導の取組みが紹介され、実施することとなりました。



ペットボトルをたおさないように...

実施に当たり、まず実際に体験してみようとしてチャリンコチャンピオンの実績のある「あおぞら財団」に連絡をとり、そこで上田敏幸氏と出会いました。偶然にも、上田氏が住む地域の子とも祭でチャリンコチャンピオンを実施することので、和泉市立緑ヶ丘小学校を尋ねました。

当日、あいにくの雨模様で、急遽、前日セッティングしたコースを短縮して実施されました。当日のコースは、間隔判断、ブレーキテスト、一本橋、進路変更、8の字走行、スラローム走行の順で行われました。

用具を工夫してみました

この視察を基に、本町での実施に向けて何度か協議会を持ち、地域教育協議会（すこやかネット）の親子体験活動の中で実施することとなりましたが、実施するための経費がまったく無かったため、コース設定に必要な材料（用具）について工夫しました。

まず、一本橋ですが和泉市の視察の時、板に厚みがあり、また、雨が降っていたことも重なり、橋から一度落ちるとタイヤが滑ってこける場面が多くありましたので、より安全に実施するために、使い古しのテントの生地を30cm幅に切り、それをトタン釘で打ち付けて橋を作りました。安全性は確保できましたが、地面に水分が多く強風のときはすぐにめくれるのが難点です。

次に、8の字走行ですがペットボトル（1〜2リットル）を持ち寄り、それに水を八分目まで入れ、絵の具を混ぜカラフル



一本橋



スラローム

なブロックを作りました。水の量で倒れるときの抵抗が変わりますので、参加対象により量を加減して下さい。

最後にスラローム走行ですが、水道工事で不要になった廃材（75のHIVP管とソケット）を1・5mに切りパイロンを作りました。風が強い時は直ぐに倒れるので30cmくらいの杭を打ち、その上からかぶせるように立てます。

コースは、会場の状況に応じて臨機応変に設定しました。種目については、安全チエック、間隔判断、一本橋、8の字走行、スラローム走行、ブレーキテストを選びました。

また、当日の運営については、地域教育協議会より中学生スタッフの参画をいただいて実施しました。

いつでも、手軽に、楽しくできる

今回のチャリンコチャンピオンは、本町での初めての試みでした。「誰が自転車のチャンピオンか」ということよりも、幼児から大人まで親子で楽しめる内容を重点を置き、より安全に実施することを心掛けました。

事業を実施する時、まず、予算面を考えなければなりません。少しの工夫で、身近にあるものを利用して、いつでも、手軽に、楽しくできることが多くあると思います。

みなさんも是非、いろいろの知恵を出してチャリンコチャンピオン事業を楽しんで下さい。

（むかい・ひでゆき 能勢町青少年指導員協議会事務局、能勢町教育委員会生涯教育課）

和泉市立緑が丘小学校は、市の南部にある振興住宅地にある小学校で、近年、周辺の宅地開発に伴い人口が急増、児童数11

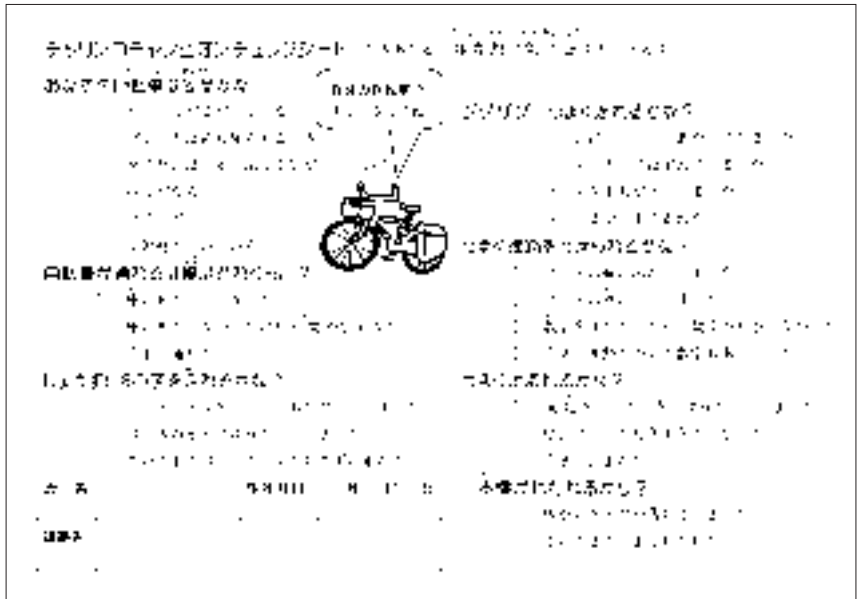
子どもの安全を守る

オヤジが支えるチャリンコチャンピオン

00人を超えるマンモス校となり、2006年(平成18)4月には校区を分離して新しい小学校(青葉はつが野小学校)が開校した。
本校では、3年前からPTAによる「子どもたちの安全を守る」活動が、地域の協

上田 敏幸

力を得ながらすすめられており、保護者による登下校時のパトロール、子どもたちが自身が安全な行動を身につける、子どもたちとつくる安全マップづくりなどに取り組んでいる。
チャリンコチャンピオン大会は、活動のひとつで、4年生以上の児童全員に「安心・自信・自由の権利」を身につけるCAP研修とともに2005年秋に開催した「みどりこどもまつり」のプログラムのひとつとして実施した。



コースをまわって自己採点します



「コレ通れる？」自転車に乗ったまま通れる間隔を体験

オヤジの出番

大会を準備したのは父親たちだった。得意の「ノ(飲)ミネーション」で打ち合せをし、当日はあいにくの雨にもかかわらず、瞬時に雨の影響を受けにくいコースに仕立て直し、200人を超える参加申込者をときばきとさばいていく手際の良さは見事だった。

ともすれば、家庭では煙たがられ、地域との関わりも少なく「子どもと学校は女性頼み」のオヤジたちだが、出番が与えられればしっかりと応えるのである。雨の中、水を得た魚のように活躍するオヤジに惚れ直した女性もいたに違いない。

安心・安全のまちへ

本校では、2006年10月21日開催予定の「第14回みどりこどもまつり」でも、チャリンコチャンピオン大会を開催しようとして、オヤジたちに「打ち合せ」を呼びかけている。今年の取り組みには、和泉警察署の協力も得られそうである。パトカーと警察官が安全指導に駆けつけてくれることになっている。多くの人の協力を得ながら、本格化する自転車の安全教室、チャリンコチャンピオン大会が、地域に定着し、「安心・安全なまちづくり」に役立つことを願っている。
(つえだ・としゆき 緑が丘小学校PTA)

ほっと ニュース

西淀中学校 職場体験

大阪市立西淀中学校2年生の生徒3人が、6月16日あおぞら財団で職場体験をしました。この日は郵便物の発送作業がたくさんあり、手よりも口がよく動く大人たちを横目に、中学生たちは黙々と仕事に励んでいました。どうもありがとうございました。

人権フィールドワーク 文の里中学校

大阪市立文の里中学校(阿倍野区)2年生のフィールドワークの受け入れを6月28日におこないました。リバティおおさか(大阪人権博物館)の見学とセットになった授業で、午前と午後あわせて47人の生徒たちが、西淀川公害について、語り部の話や展示、資料から学びました。

環境経済学世界大会に出展

7月4〜7日の間、京都国際会議場にて開催された環境経済学世界大会にあおぞら財団が出展しました。1300名もの参加者、7割が外国からの参加ということもあり、展示はすべて英語で作成しました。展示内容はあおぞら財団の説明、エコミューズの案内、エコドライブの報告、大気汚染の歴史などです。5日には、小池百合子環境大臣がブースに訪問されました。(写真下)



展示をみる小池環境大臣

評議員会・理事会を開催

2005(平成17)年度事業報告書案と決算報告書案の審議を主な議題とする第18回評議員会(6月20日)と第27回通常理事会(6月25日)が相次いで開かれ全員一致で承認しました。

おねがいとおしらせ

リベラへのご意見・ご要望または投稿をお待ちしています。また、メール通信「あおぞらEXPRESS」を開設しています。ぜひご利用下さい。

配信を希望される方は

<http://groups.yahoo.co.jp/group/aozora-mail/>

から登録できます。

リレーエッセー

私が大阪より東京へ引越してからほぼ1年が経過した。今年の東京は梅雨がなかなか開けず曇り空のどんよりした天気が続いていたが、ようやく遅い夏の到来である。

東京に来てから、益々私は環境問題を考えさせられる出来事に遭遇している。それもなんと引越し初日、大阪から東京への引越しトラックが待てど暮らせど来ないというエピソードから始まる。約束の時間から1〜2時間以上経つのにトラックが来ない。荷物のないガランとした部屋で、『引越し日を間違えた?』と焦った私は引越し会社へ問い合わせると、引越し日には間違いがないことが分かり安堵。その後、約束の時間からかなりの時間遅れて、無事にトラックが到着し、無事な運送を得たのであるが、運転手に遅れた理由を聞く

と、東京都のディーゼル車規制に引っかかり、荷物を全て別のトラックに移さねばならず、そのために余計に時間がかかってしまったというものであった。その大阪発の引越しトラックはディーゼル車だったのだ。やっぱり東京には生まれへんわ」という言葉を残しその運転

意外に身近な公害問題

橋本 孝子

手は去っていったのだが。単なる引越しが、逆に環境問題を考えさせられる出来事になってしまったのである。それに加え、私は東京に来て生まれて初めて、「光化学スモッグ注意報」を聞くこととなった。周囲は慣れっこになっているようで、「ああ、またか」という反応だが、田舎育ちの私はまだまやパニックである。心の中で「光化学スモッグって公害よね?」と驚き、すぐさまインターネットで確認する始末。なんと関東ではここ数年、光化学スモッグ現象が増加している。しかも、公害とは無縁と思っていたわが故郷の東北も、風に運ばれて光化学スモッグ現象が起きていることを知り、愕然としたのは言うまでもない。

最近ゴミの有料化も開始され、今度はどんな環境問題が我が身に降りかかってくるのだろうか、ドキドキすると同時に、益々環境問題に目が離せない毎日を送っている。(はしもと・たかこ 一ツル大学大学院社会学専攻、財団評議員)

- 1日(木) 全史料協総会、例会(参加)
- 3日(土) 林功さんを偲ぶ会実行委員会
- 4日(日) ソラダス2006第6回大阪NO₂簡易測定調査カプセル濃度検出作業(参加)
- 6日(火) 第31回全国公害被害者総行動デー(～7日、参加)
- 8日(木) 拡大事務局会議
- 10日(土) 社団法人大阪自治体問題研究所第33階定期総会(参加)
- 12日(月) 第6回西淀川地域再生研究会
第29回西淀川地域研究会
子どもの参画べんきょう会
- 13日(火) 事務局会議
資料館定例会議
- 15日(木) 「悲劇から何を学ぶか～終らない水俣病:半世紀を経て～」(参加)
- 16日(金) 第37回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会
西淀中学校職場体験受入
淀川勤労者厚生協会ジャンボリー学習会(ゲスト:鎗山)
- 17日(土) 矢倉海岸定例探鳥会
- 19日(月) 西淀川高校まくわうり種まき
- 20日(火) 評議員会
事務局会議
新人歓迎会
- 21日(水) 尼崎道路連絡会(参加)
- 23日(金) 第10回西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会
緑陰道路の教材づくり研究会
水辺ネット会議(堺)
- 24日(土) 林功さんを偲ぶ会実行委員会
- 25日(日) 理事会
- 27日(火) 事務局会議
第57回西淀川道路環境対策検討会
- 28日(水) 文の里中学校フィールドワーク受入
名古屋南部地域道路沿道環境改善に関する連絡会(参加)
- 29日(木) ソラダス西淀川実行委員会
- 30日(金) 第6回フードマイレージ教材化研究会

6月

事務局日誌

7月

- 1日(土) 第7回西淀川地域再生研究会
- 3日(月) 第3回環境経済学世界大会ブース展示(～7日)
- 4日(火) 韓国司法修習生来所(～7日)
- 6日(木) 拡大事務局会議
- 7日(金) 第26回日本福祉のまちづくり関西セミナー
「心の障がいのある人も安心して住まえる環境づくり」(参加)
- 8日(土) 林功さんを偲ぶ会
- 11日(火) 事務局会議
資料館定例会議
- 12日(水) リパティおおさか見学会(参加)
- 13日(木) 子どもの参画べんきょう会
- 15日(土) 移動送迎支援活動・勉強会「STサービスの海外の動向と日本の現状
～道路運送法10月改正の中で考える～」(参加)
矢倉海岸定例探鳥会
- 18日(火) 事務局会議
- 19日(水) 第10回川崎市南部地域道路沿道に関する連絡会(参加)
- 20日(木) 水島協同病院高齢患者リハビリプログラム検討会
- 22日(土) 第3回四日市環境再生まちづくりシンポジウム(参加)
- 23日(日) 第 期道路環境市民塾第二回 教えて!道路特定財源
- 25日(火) 事務局会議
資料館基金集め作戦会議
- 26日(水) 第7回フードマイレージ教材化研究会
- 27日(木) 第38回西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会

お知らせ

矢倉海岸定例探鳥会(日本野鳥の会大阪支部との共催、毎月第3土曜日開催)

日時 9月16日(土) 午前9時30分

～12時30分(現地解散)

集合 阪神電鉄西大阪線「福」駅改札口午前9時30分

場所 矢倉緑地公園

第 期 道路環境市民塾 クルマ社
会を考える

第4回 10月1日(日) 午後1時30分

分～4時30分

テーマ クルマをめぐるメディア論

～クルマ広告の秘密が知りた
い～

講師 水野由多加さん(関西大学教
授)

第5回 11月26日(日)

テーマ クルマがないと何に乗る?

～自転車・公共交通の巻～

講師 能村聡さん(特定非営利活動
法人神戸まちづくり研究所)

会場 大阪NPOプラザ(大阪市福
島区吉野4 29 20 06
6465 8390)

お礼

左記の方々から寄付・寄贈をい
たいただきました。(2006年6月・
7月)心から御礼を申し上げます。
寄附・寄贈者(敬称略)
井奥圭介/上杉剛/上田幹枝/遠

てづくりせつけん教室(絹せつけん)

日時 10月12日(木) 午前10時～12時

場所 あおぞらビルグリーンルーム
費用 2400円(材料費1200
円、受講料1200円)

*事前の申し込みが必要です。
(06 6475 8885)

地昭典/大久保規子/太田映知/
香川雄一/黒岩晴子/小山勝己/
酒井健一/澤井余志郎/庄谷邦
幸/高橋理喜男/中島晃/中村昌
広/新田保次/馬場明男/有フア
ルマ・プラン/牧洋子/松井克
行/宮本憲一/村杉幸子/村松昭
夫/森脇君雄/除本理史/大阪人
権博物館/交通工コロジ・モビ
リティ財団/神戸大学文学部地域
連携センター/国文学研究資料
館/市民運動資料研究会/全国歴
史資料保存利用機関連絡協議会資
料保存委員会

【編集後記】

一人暮らしの慰めにと、もち込んだ猫が16歳の生涯を終えた。大正生まれの母のよきパートナーとして実に誠実に役割を果たしてくれた。母は、緑色の目をした彼女との「会話」をいつも楽しんでた。そんな彼女に悪性の腫瘍が見つかり、食欲もなくなって点滴の日々。母は、めっきり動きが緩慢になった我が身を奮い立たせて彼女を介護した。「看取ってやれてよかった」安堵のため息が耳に残っている。合掌。(T)

『Libella』No.92 2006年9月号(隔月1日、年6回発行)

発行所 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)

編集人 上田敏幸

大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル4階

Tel.06-6475-8885 Fax.06-6478-5885

http://www.aozora.or.jp/

E-Mail webmaster@aozora.or.jp

印刷所 あゆみコーポレーション

定 価 一部400円(郵送料込み)

会員の購読料は会費に含まれています。

郵便振替口座 00960-9-124893(加入者名 あおぞら財団)

乱丁・落丁はお取り替えします。本紙掲載記事の無断転載を禁じます。



1973年和歌山市生まれ。NGO団体である(社)アジア協会アジア友の会に勤務。一方でおおさか自転車マップづくりの会代表を務める。大阪の景観をそこねない、そこに停めたくくなるような駐輪空間ができないか考えている。

あおき ようすけ
青木 洋介

人間らしく安心して快適に 移動できる時間を過ごしたい

車に乗らずに

私が「車に乗らない」宣言をしたのが、大学1年のゼミでの環境問題をテーマに議論していたときのことです。大学2年時に運転免許を取ったとき、「あれ、車に乗らないと発言したのは誰かな?」と周りからしつこくせめられた苦い思い出があります。当時は、社会に出てからの身分証明書として役に立つという言い訳をしましたが、笑われるだけでした。あれから14年、幸いにして、これまで交通網の発達した大阪市内を住動拠点として

きたので、生活上ほとんど車に乗らないでも十分に過ごしてこられました。おそらくこれからも、大阪市内で生活し続ける限りは、個人として車を利用する機会はあるでしょう。むしろ大阪や東京など都市生活者にとって、車は経済的な負担になるだけで、実際、車を手放す人もいます。

自転車マップづくり

車を持たない人、また都心部の移動に車を使わない人は、私のように自転車に乗るか、公共交通機関である電車やバスに頼ることになります。なかでも自転車は、電車やバスに比べるとドアツードア感覚ですぐに利用でき、経済的負担の小さい交通手段ですので、多くの人に利用されています。しかし残念ながら、これまで大阪の街なかをはじめから終わりまで気持ちよく安心して走れた覚えがありません。おそらく、大阪市にはじめて越されてきた人には、場所によって、自転車でどこを走ればいいのか迷われるの

ではないかと思えます。私自身がそうでした。そういう問題も含めて、自転車を日常の交通手段として利用している方々の役に立つ情報を載せた地図があればいいなと思い、数人の有志を中心に市民グループを結成し、自転車マップづくりをはじめました。この度、その第一弾として「おおさか自転車マップ・大阪市北エリア版 ver.1」を発行しました。

大きな夢

1日24時間1年365日という時間の中で、人が平均して要する全ての交通時間とはどれだけになるのでしょうか。他の時間と同じように人生の貴重な時間の一部です。人間らしく安心して快適に移動できる時間を過ごしたいものです。自転車マップづくりの取り組みが長い目でみて、そういう時間や空間が保障された大阪の街の実現につながっていきたく、大きな夢を抱いています。

おおさか自転車マップづくりの会

<http://www.ocn.zaq.ne.jp/cycle-map/>